

春を通り過ぎ、初夏のような気候が続いていますね。
今年も暑い夏になりそうで体にも製品にも厳しい環境になりそうです。
早く体を慣らして夏本番に備えたいと思います。

皆さまご承知のとおり、アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃に端をなす中東情勢の影響が連日報道されています。弊社においても3月中旬よりご注文の増加、原材料価格の大幅な高騰と供給制限の影響を受け、大変混乱の中におります。
お客様におかれましても、今後の生産見通しなどご不安を感じる日々ではないかと思ひます。

現在の弊社の状況ですが、塩ビシュリンク、軟質塩ビ、帯電防止・導電、防錆フィルム等全ての原料において、若干の納期遅延はありますが安定的に供給されております。
しかしながら、前年実績を基に供給量は制限されており、前取りや納期短縮は出来ない状況です。

報道等により「材料がない！製品がない！」とのことですが、「少し早めに・・・少し多めに・・・」を皆が行うと当然ながら材料不足と納期遅延が起こります。現在弊社では多くのご注文をいただいております。納期が大幅にかかってしまっております。ご迷惑をおかけしております。
お客様におかれましては、必要数量をご確認のうえ、通常よりも余裕を持ったご手配にご協力いただけますと幸いです。

お客様に変わらぬ製品を変わらぬ品質で一日も早くお届けできるよう、
全社一丸となって取り組んでおります。
ご不安等ございましたらお気軽にお問い合わせくださいませ。

代表取締役 大江正孝

Topic 01 土日を挟むシュリンクフィルムの出荷を控えています

9:00



15:00



天気予報を見ていると早くも「真夏日(30℃以上)」のワードが出てきています。
今年は新たに40℃以上の新名称「酷暑日」が誕生しました。
シュリンクフィルムは熱で収縮するため、気温が高くなると注意が必要です。

弊社では高温によるシュリンクフィルムの自然収縮を防ぐ為、
気温が高くなる季節は土日を挟む出荷を制限しております。
運送会社様に製品をお預けした後、冷房環境の無い倉庫や、
高温になりやすい車内に製品が長時間保管される可能性を避けるためです。

希望納期を週明けの日付で頂戴した場合、別途ご調整をお願いしております。
ご協力お願いいたします。

5月の真夏日にシュリンクフィルムを日中(9時~15時)停止している
車内に放置して、自然収縮がどうなるのか・・・実験を行いました。
車内の温度は9時開始時:23.1℃⇒15時時点:42.9℃以上(計測不可状態)、
プラス20℃近くも上昇しました。

使ったフィルムは弊社の規格品B-2(0.02×130×300)です。
車内に6時間放置したフィルムは
開始時と比べると表面に波打つようなシワが多く入り、
パリパリとした質感で硬くなっているのがわかりました。
実際に、サイズも幅が-11mm、長さが-7mmと小さくなりました。

特に開口部の収縮が大きく、それだけ収縮が進んでしまうと、
ジャストサイズで入れることのできたボトルも入口でひっかかり、
入れることができません。

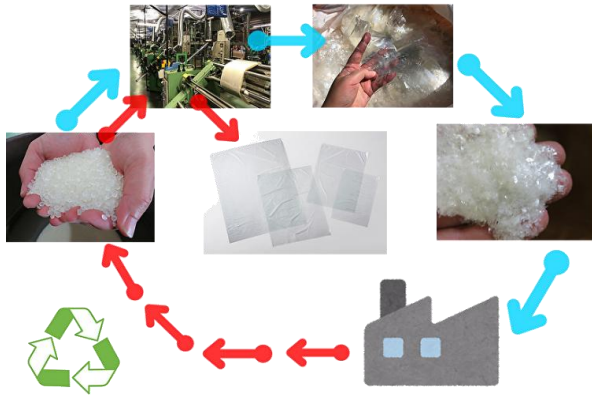
お届けした後、長期間フィルムを保管されるお客様も多いかと思ひます。
製品お届け後の保管時にもご注意いただけますようお願いいたします。



Before



After



弊社では生産工程で発生するロス材のリサイクルに取り組んでおります。

塩ビシュリンクにおいては、リサイクルグレード「G101XG」を展開しております。それ以外の多色展開しているC501や特殊グレードのロス材は、主に建築資材の床材向けに材料を供給しております。帯電防止・導電のポリエチレンにおいても同様にリサイクル材料を供給しています。そのためほとんど廃棄を出さない工場となっております。国内外の環境規制が変わつつあり、リサイクルを前提とした製品設計が求められる時代となりました。

弊社でも今後リサイクルに力を入れていきます。現在、お客様先でご使用になられたフィルムを回収しリサイクルできる体制を考えております。新しい取り組みを発表できるようになりましたらご紹介させていただきます。

EU市場で流通する製品の包装とその廃棄物を規制するPPWR(包装・包装廃棄物規則)が2025年2月に発効されました。この規制は、EU加盟国で包装廃棄物の規制の対応に差があったため、EU加盟国に一律に適用される規則(Regulation)へと格上げする形で提案されたのがPPWR(Packaging and Packaging Waste Regulation)です。PPWRは、廃棄物の削減・再利用・リサイクルの取り組み強化を目的としております。

現在、中東情勢緊迫化に伴うナフサ不足で市場が大変なことになっておりますが、2026年8月から順次開始される予定になっております。



▽主な内容

1 包装廃棄物の削減

1人あたりの包装廃棄物の重量を
(2018年度比)

削減率	2030年までに	2035年までに	2040年までに
5%削減	10%削減	15%削減	

2 100%リサイクル

EU域内で流通するすべての包装を
2030年までに100%リサイクル可能にする。

3 リサイクル目標

包装廃棄物全体に対するリサイクル割合を
包装資材ごとに義務付ける。

材質	2025年までの目標	2030年の目標
プラスチック	50%	55%
木材	25%	30%
鉄	70%	80%
アルミニウム	50%	60%
ガラス	70%	75%
紙・段ボール	75%	85%

※目標値は一例です。詳細は法令をご確認ください。

2030年以降、7つの持続可能性要件を満たさない包装の商品は、EU市場で販売できなくなります。

- 1 有害物質の規制
- 2 リサイクル可能性
- 3 プラスチック包装の最低リサイクル材含有率
- 4 バイオベース原料の使用
- 5 堆肥化可能性
- 6 包装の最小化
- 7 再利用可能な包装

弊社では、リサイクル原料使用グレード、バイオマス原料使用グレードのご用意がございます。ご興味のある方は、弊社営業担当まで、お気軽にお問合せいただけましたら幸いです。宜しくお願い申し上げます。